

2 級技能士論述試験対策のポイント

- 本文（逐語記録）より先に問題用紙の設問と解答用紙をみる。
（どんな問題が出るかわからない、前回と違う出題形式の可能性があるので）
- タイムマネジメントを意識する。
（試験時間は 60 分しかない。自分がどこに時間がかかるのかを見極めておく）
- いきなり解答用紙に書き始めない。
（問題用紙の余白や裏面を使い、出来る限りキーワード・全体の構成などを整理する）
- 解答用紙の欄外や裏面には記載しない。
（語尾が少しはみ出る程度は許容されているようだが、指定されているルールは守る）
- 解答する行（文字の分量）は 9 割以上うめることが望ましい（問 3①目標設定除く）
（指定されている分量には「これぐらい書いて欲しい」という出題者の意図がある。
少なくとも良いなら最初から行数（文字数）を減らしているはずである）
- 文字の大きさは小さくてもよいので、書きたいことを優先させる。
- 箇条書きにする際は文章として繋げて書くほうが望ましい（右側の空白を減らすため）。
例：「方策は次の 3 点である。(1)・・・。(2)・・・。(3)・・・。」
- 全体の解答に矛盾がないよう一貫性を持たせる。
（クライアントに対するポリシーや表現方法は統一する。例えば文末の「ですます調」や「である調」、「CCt」や「CL」と一度使ったら最後まで統一するなど）
- 解答のイメージは、キャリア面談後の面談記録を書くように纏めていく。
- 問 1 と問 2 は、どちらから始めてもよい。とにかくアウトプットが何よりも重要である。解答のプロセスは採点者にとって関係がないし、分からないため。
- 問 1 は主観や推察を交えず出来る限り CL の言葉をそのまま引用する。
- 問 2 は見立て（仮説）になるので、根拠が明確ではない場合は出来る限り断定をさける。
例：「・・・と思われる。」「・・・と見受けられる。」「・・・と推察する。」
- 問 3 はクライアントの自己決定権を重視し、「させる」のような指示的な表記はさける。
例：「・・・支援する。」「・・・一緒に考えていく。」
- 目標設定が難しく時間がかかる場合は、先に方策を考えてみるのも有効である。
- 解答に矛盾が発生しないように問 2 と問 3 は必ず一致させる。
（問 2 で問題点を 2 点あげたら、問 3 もその 2 点について対応した記述にする等）
- 問 3「方策」は出来る限り数を上げるよう努める（理想 7~8 案、最低 5 案、上限 10 案）。
- 早く終わっても途中退席しない。ギリギリまで推敲する。
（体調不良や次の予定がある場合は除くが、たとえすぐに終わったとしても誤字脱字がないか、矛盾している表現がないかと自問し最後まで諦めない姿勢で臨む
ただし、どうしても退出したい場合は 6 分前まで待つて会場を出る）